



台中市政府(原台中州廳)



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_central/736/



エリア

台中市

テーマ

歴史

政治

建築

台中市政府(旧台中州庁)

西洋風日式建築の傑作、 白亜の宮殿は内部も見事

台湾中部最大の都市、台中は日本統治時代に都市計画が進められたまち。中心部の整然とした街路のコーナーに、1914年の1期工事完成から1934年まで増築を重ねて建てられたのがこの旧台中州庁です。L型の中心を交差点に向けていて、その姿は羽を広げた白鳥のよう。連続するアーチの上に、すっきりとした円柱で支えられたバルコニー空間があります。これはロジヤと呼ばれ、陰影をつけるとともに格式を高める働きをしています。以前は市定古蹟だった旧台中州庁は台中市政府庁舎として使われてきましたが、その価値が再評価され、2019年に国定古蹟に格上げされました。向かいに建っている真っ白い旧台中市役所とともに美術館の園区として整備される計画もあるようで、今後さらに人気のスポットになりそうです。

学 び の ポ イ ン ト

1.

ギリシアからきたデザインも？

正面のロジヤに並ぶ計6本の柱に注目。てっぺんに巻き貝のような彫刻があるイオニア式列柱です。これは、古代ギリシアから続く西洋建築の王道というべきスタイルです。ほかに、中央から突き出した「車寄せ」には、三角形のプロークンペディメントが帽子のように載り、歯形のようなデンティルが水平に並んでいます。そんな装飾一つ一つが、この建物を比類のない壮麗な姿に見せているのです。

2.

いちばんの見どころは階段？

洋館の内部の見どころは、なんといっても階段。上下の空間をつなぐ劇的な装置であるとともに、窓から導いた光によって、天に昇るような上昇性を人に与えます。この建物でも、柱や階段の板(段板)、やわらかくカーブする手すり、それを支える美術品のような丸い子柱などは必見です。来た人は、ここでワクワクしてほしい！ そう願って建築家は階段をデザインするのです。台中州庁のメイン階段は、玄関を入ってすぐ目の前。小さい声で「わっ」と驚いてほしいところですよ。

3.

裏側は別の顔？

中庭に進んで、振り返ってみましょう。ぜんぜん違う「顔」が見えます。裏側は赤煉瓦のボディと白いライン、そして半円アーチが整然と並んでいます。正面とは違って、「おとなしい」姿なのです。異なる様式を大胆に組み合わせる、これは設計者の森山松之助が得意とした手法のひとつでした。